

キーワードは「自助」と「共助」

特集

# 自主防災

準備しておくことで、

自分や家族が助かるのなら...

1978(昭和53)年6月12日の「宮城県沖地震」から32年。国の地震調査委員会の報告によると、今後30年以内に、99%の確率で震度6以上の大規模地震が発生すると言われている。地震などの災害が起きたときにまず必要なのは、「自分や家族の身を守ること」。行政機関だけの力ではやはり限界があり、家庭はもちろん地域での「事前の備え」自主防災が必要になる。今月号では、この自主防災の大切さをあらためて確認したい。



▲昨年6月7日に開催した白石市総合防災訓練(救護訓練)

## 繰り返しの訓練が、接する機会を生み「人」をつなげる

### 南町自治会―炊き出し訓練

昨 年11月14日、南町区民会館で南町地区の皆さん約50人が炊き出し訓練を行った。今回の訓練は、災害により電気やガス、水道、電話が使えないという状況を想定。災害ボランティアアドバイザーの黒澤司さんの指導を受けながら、災害時の炊飯方法や、忘れがちな「心のケア」の大切さなどを学んだ。黒澤さんは、災害時のストレスを軽減すること、コミュニケーションづくりのひとつとして足湯の有効性を説明した。これは子どもからお年寄りまで効果があるという。そして、「板金業から看護師など、地域には

いろいろな職種の方がいます。これがまさに地の利。これをいかに生かすかが重要」と地域の大切さを話してくれた。

組織して終わりではない、繰り返しの訓練が「いざ」に生きる。最も重要なことは、いざというときに組織がいかに機能するかということである。そのため各組織では訓練を行い、知識や技術を身に付け万が一に備えている。しかし、技術以上に重要なことは、自主防災という組織によって、地域の人と人が出会い、結びついていくことである。万が一のときに、隣近所と結びついていることほど心強いことはない。

1月31日には、本郷第一自治会の皆さん約70人が中央公民館で防災訓練を行った。同自治会では防災委員会を設置し、組織的な活動を行っている。3回目となった今回の訓練では、応急処置などの救急救護訓練や、消火器を用いた訓練などを行った。白石消防署の救急救命士が「救急車が到着するまでには時間がかかります。人工呼吸や心臓マッサージによって助かる命

があります。ぜひ講習を受けてほしいです」と、ほんの数分の重要性を話してくれた。



1



2



3

- 1. 南町自治会の炊き出し訓練は雨の中行われた
- 2. 本郷第一自治会の防災訓練(救急救護訓練)
- 3. 頼もしい地域の味方=消防団

大規模災害が起こったとき、特に地震のような広域災害では、公的機関(行政や消防など)が現場に向かうだけで時間を要する。2008(平成20)年6月14日に起こった岩手・宮城内陸地震では、土砂災害などにより山間部への道路が寸断され、救助に時間を要した。地震発生からの72時間(3日間)は自分たちで身を守るため、事前の備えが必要と言われている。

### 共助の核 自主防災組織と消防団

そこで必要となるのが、地域の助け合いである。特に「自主防災組織」の重要性が日に日に高まっている。各自治会などが自主的に結成し活動するこの組織。普段からの顔見知り同士が連携することで、よりスムーズな避難や要援護者などの情報連携が期待されている。

また、共助のもうひとつの核となるのが、「消防団」の存在である。本市の消防団員は本年5月1日現在、635人。消防・防災に関する知識や技術を習得し、火災だけでなく大規模災害発生時には、救助活動など地域住民の生命や財産を守るために活躍する。また、平常時においては自主防災活動の指導的役割

も担い、地域防災になくてはならない存在となっている。

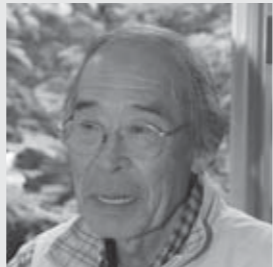
本市の自主防災組織率は70.7%、全国平均73.5%を下回る

年々増加する本市の自主防災組織率。本年5月1日現在では、113自治会中80自治会(70.7%)が結成している。しかし、本市の組織率は、ほかの自治体と比べて決して高くない。宮城県全体では85%、全国平均でも73.5%となっている。最も高いのが愛知県で98.9%、次いで静岡県が97.6%となり、東海地震などの大地震が予想される地域などが上位を占めている。数字では表せないつながりが地域にはある。とはいえ、組織という形として動くことにも意味があることを、もう一度考えなければならぬ。

### 自主防災組織結成状況 (平成22年5月1日現在)

地域	自治会数	結成自治会数	結成率
白石	26	10	38.4%
越前	10	10	100.0%
斎川	10	10	100.0%
大平	10	9	90.0%
大鷹沢	13	13	100.0%
白川	7	6	85.7%
福岡	23	15	65.2%
小原	14	7	50.0%
合計	113	80	70.7%

### 地域がつながるように



南町自治会長 日下 徳衛さん

防災は命にかかわること。命を大切にするために、訓練が役立てばと思います。そして、地域は地域で守るという思いを大切に、家族=隣近所と地域が繋がればと思います。今後は、定期的に訓練を行い、若い人たちがもっと参加できるようにしたいです。

### 誇りと責任を持って



白石市消防団長 跡部 敏さん

消防団を取り巻く環境は、団員の減少など大変厳しい状況ですが、600人余りの消防団員と市民の皆さんとの連携をより一層密にしていきます。予防消防を徹底し、市民の安全と安心を確保できるよう努めます。ぜひ普段から、「予防」の気持ちを大切にしましょう。

### 訓練を積み重ねて



本郷第一自治会防災委員長 大槻 正勝さん

訓練はすべて有意義で良かったと思います。自治会には高齢世帯が多く、各自治会の班長が見回りをするようになってきました。毎年訓練を積み重ねることで、災害時には地域ぐるみで、被害を最小限に食い止められるように普段から備えていきたいと思っています。